

「探究活動」のプレゼン資料・報告書の作成基準表

佐賀県立致遠館高等学校普通科（平成30年度 ver1.1）

項目	作成基準	配点
研究テーマ	日常生活や、自分にとって興味のある分野に関連してテーマを設定して書いている。	2
	ただ自由に研究しているのではなく、第三者が価値を感じる「課題」を設定して書いている。	6
要約	全部読まなくても、ここを読めば、「何を明らかにするため、どんな調査をし、何が分かったか。この研究が何に生かされるか。」が分かるように簡潔に書いている。	6
目的	何を明らかにしようとしているのかを明確に書いている。	8
先行研究・理論	先行する研究を調べ、何が分かっている、何が分かっているかないかを書いている。研究の前提となる用語やしくみの定義を書いている。	4
仮説	「〇〇を変化させると、□□が△△になる。」のように仮説を明確に書いている。	4
	何の要素を変えて、何を測定するのかを明確に書いている。	
使用器具・薬品*	ここに記述している器具や薬品等を用いて調査すると、同じ調査結果が再現できるように書いている。（大きさ・形、メーカー名、ロット番号等）	
方法	写真や図を適切に使用して、どのような方法で調査したのかが第三者にも分かるように明確に書いている。	7
	調査方法を文献から引用している場合、何年の誰の何の論文から引用したかを書いている。	2
	一つの調査では、ある一つの要素だけを変化させ（他の要素は変化させず）、その結果生じる値の変化を測定することを書いている。	
結果	調査結果を表・グラフにまとめ、表・グラフの説明を書いている。	8
	表・グラフの選択は適切であり、軸の要素をそれぞれ示し、表の上に「表1」やグラフの下に「グラフ1」等のキャプチャを書いている。	2
	グラフに、箱ひげ図や近似直線・近似曲線を描いて、グラフの傾向をより正確に表している。	3
考察	表・グラフのデータから読み取れる範囲で、無理のない論を導出して書いている。また、データとは無関係な、思いつきや願望による突飛な考察を書いていない。	9
	仮に、仮説と異なる調査結果になった場合、調査結果の方を優先してデータに基づき論を導出して書いている。	8
	仮に、各調査で調査結果が同様になった場合（異なった場合）、無理に差が出るような（無理に差が出なくなるような）解釈をせずに論を導出して書いている。	3
まとめ・展望	研究テーマ、目的、仮説、方法、結果、考察がブレずに一貫している。	10
	単なる希望や期待ではなく、調査結果と考察に基づく今後の研究方針を書いている。	8
謝辞	助言を受けた場合、「本研究にあたり、〇〇大学〇〇学部 〇〇 〇〇〇〇先生に多くのご助言をいただいたことに深く感謝申し上げます。」などを書いている。	2
感想*	楽しかったや難しかった等の気持ちや心情ではなく、学習活動として探究活動を振り返り、今後の学びに向け何をどう改善するかを具体的に書いている。	4
引用文献・参考文献	文献について、『著者氏名(発行年)、「書名や論文のタイトル」.出版社や雑誌名.号数.ページ』と書いている。	2
	サイトについて、『作成者(公開年).Webページのタイトル.URL.自分がアクセスした年月日』と書いている。	2
フォント※	読みやすい（見やすい）文字の大きさやフォントの種類で書いている。	2
	背景の色と文字の色の関係に注意して、識別しやすいように書いている。	2

*は報告書だけに関係する項目。※はプレゼン資料だけに関係する項目。アミカケは理数科だけに関係する項目。